

横浜市立瀬谷第二小学校
R3年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

| 学校教育目標 | 教育課程全体で育成を目指す資質・能力 |
|----------------------------|--------------------|
| 「友情わく、力わく、希望わく、毎日わくわくする学校」 | 〈自分づくりに関する力〉 |

(2) 中期取組目標

| 中期取組目標 |
|---|
| <p>○地域・保護者と協力し、自ら進んで行動し、毎日わくわくする学校をめざします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア学年活動や道徳教育を充実することで、主体性や規範意識を育てます。 ・一人ひとりが自己有感をもって楽しく学校生活が送れるようにします。 ・健康安全に気を付け体力増進を図ります。 ・学習の基礎基本が定着するよう、授業改善に努めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・個のニーズを把握し、それに応じた指導に努めます。 ・校内組織を生かした児童理、児童指導に努めます。 ・地域や家庭の力を生かした教育活動に努めます。 |

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|----------|---|
| 生きてはたらく知 | ①算数に安心して取り組み、自己肯定感が高まるように、重点研究を通して、児童の実態に応じた手立てを考える。②各教科でペアやグループでの学習を取り入れ、児童の言語活動を保障するようにする。③相手意識や目的意識をもたせる為に、学校の特色であるペア学年活動を活用し、学習活動を総合的に取り組んでいくようにする。 |
| 担当 教務 | |

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握（令和元年度の調査から）

(1) 学力の概要と要因の分析

全体的に市の正答率をかなり下回っている。授業はわかりやすいかという問いに「よくわかる」と答える子は37%、「だいたいわかる」の回答数とあわせるとほぼ75%に達しているが、子どもたちの自己評価ほど学力向上に結びついていない。ノートや記録、話の聞き方など向上している部分もあるが、家庭学習の習慣がなかなかつかず、学んだことのフィードバックがされないことが、伸び悩みの一因と考えられる。繰り返し、練習したことは、定着度が高いので、定着に向けての支援の工夫が必要である。また、生活意識を見ると、学年による差が大きく、全体的にも低い傾向がみられる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：繰り返し練習をした漢字の読み書きは比較的正しくすることができる。大事なことを落とさずに聞いたり、読み取ったりすること、構成を工夫して書くことなどが課題。
- 社会科：見学など、体験的活動を通して学習した内容は、正答率が高い。資料等を読み取り、事象について特徴をとらえたり、考察したりすることが課題である。
- 算数科：国語同様、繰り返し練習をした計算の正答率が高い。また、コンパスや、巻き尺、分度器などの計器の使い方は正しくできるようになってきた。一方で、筋道を立てて考え、考え方を説明することに難しさを感じている。
- 理科：興味のあることや実験や観察を通して学習した内容は理解度が高い。身近な事象と学習を関連づけて考えたり、活用したりすることが課題としてあげられる。

(3) 経年変化の状況と要因の分析

前年度に比べ、全体的にはあまり変化は見られない。授業がわかりやすいかという問いに対して、「よくわかる」「だいたいわかる」と答えた割合が3%減っている。学力面では、学力層Aの割合が2%増え、全体の20%で学力層Dの割合は前年度と変わらず全体の35%になっている。子どもの学習状況のみとりを的確にし、わかる喜びを感じさせたり、学習を楽しんだりすることができるような授業改善が引き続き求められている。学力の中でも、「生活意識」の部分での学年による開きも大きくなっているため、自尊感情を高め、学校生活を楽しく創造していく喜びを感じることで、学習に対する意欲をさらに高めていくことが求められる。

3 令和3年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

| | 育成を目指す 具体化した資質・能力 | 具体的取組 | |
|----|---|---|----|
| | | 前期 | 後期 |
| 1年 | <ul style="list-style-type: none"> ◆基本的な生活習慣をつくる力 ◆相手の思いを受け止めて聞く力 ◆学校生活に参画する姿勢 | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭と連携を図り、基本的な生活リズムを整えられるように、丁寧に支援する。 ○自分の思いや願いを伝え、さらに友達や教師の話を開ける力を身に付けられるようにする。 ○当番や係活動など、役割を明確にして取り組み、自己有用感がもてるようにする。 | |
| 2年 | | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭と連携を図り、基本的な生活リズムをさらに整えるように、繰り返し指導・支援をする。 ○学習全般を通して、相手の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりする活動を大切にする。 ○集団としての規範意識を高め、ルールを徹底する。さらに当番や係活動を充実させ、自分ができることを進んでできるようにする。 | |
| 3年 | <ul style="list-style-type: none"> ◆自分の考えを言葉で伝える力 ◆語彙をつなげて文にする力 ◆事実を正確に理解する力 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習したことをノートに整理し、理解できるようにする。 ○家庭学習の定着から、継続的に取り組むことの大切さを学び、「できる」という自信をつけるようにする。 ○友達や教師など、関わりをもつ人々の話を丁寧に聞くことができるようにする。 ○様々な活動を通して、自分の思いや考えを伝えたり行動で示せたりするようにする。 | |
| 4年 | | <ul style="list-style-type: none"> ○日々の学習の積み重ねを大切にし、さらに基礎知識を活用する経験につなげる。 ○体験的な活動も取り入れ、繰り返し練習することで一層の定着を図り、「できた」という自信につなげる。 ○子どもの思いや考えを生かし、豊かな言語能力を育むための活動（スピーチ、音読、日記、学習形態の工夫など）の開発に努める。 | |
| 5年 | <ul style="list-style-type: none"> ◆課題に対応する力 ◆伝え合うことで自分の考えを豊かに深める力 ◆自己肯定感 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習の総合化を図ることで、学習したことを活用したり、分類整理したりして考える力を継続して高めていく。生活体験を豊かにする。 ○問題解決的な学習の一層の充実を図るとともに、知識技能を活用する学習活動を意図的に設定する。 ○漢字練習や計算練習、文章を書く表現活動など、繰り返しの学習を大切にしていく。また、日々の生活の中で言葉の力を支える語彙を増やしていけるよう支援や手立てを行っていく。 | |

| | | | |
|--------|--|--|--|
| 6年 | | <p>○言語を伴う表現力の向上を常に意識していく。目的意識をもって課題を追求し、関心意欲の喚起や思考力の向上につなげる。</p> <p>○学習や生活の中で伝え合う活動をペアやグループで繰り返し、友達の考えを聞いて自分の考えに生かせるように経験を積み重ねる。</p> <p>○最高学年、学校のリーダーとして活動や学年での実行委員会としての活動、クラスでの活動の成果を称賛したり、普段の学習や生活での姿勢や行動を認めたりしていくことで、自己肯定感を高める。</p> | |
| 個別支援学級 | <p>◆他者を大切にする姿勢</p> <p>◆主体的に活動する力</p> <p>◆思いや考えを表現する力</p> | <p>○道徳の時間だけでなく学校生活全体を通して、他者を大切にする姿勢を育てていく。</p> <p>○体験的な活動や具体的な操作により、子どもの興味・関心を高める。</p> <p>○話型や手順を示すことで、思いや考えを伝えられるようにする。</p> | |